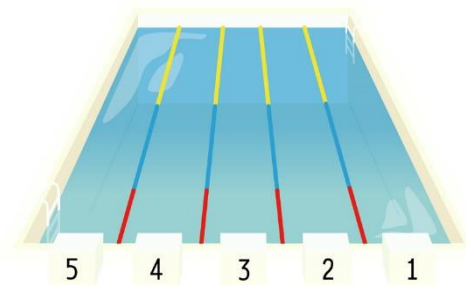


## やれば出来る

令和3年度がスタートしました。1年生は中学校に入って、2・3年生はそれぞれ上の学年に進級して「がんばるぞ」という気持ちで一杯だと思います。この「FumFum」では、皆さんに勉強について考えてほしいことを載せていきます。読んで「ふむふむ」納得して、勉強についてひとつでもわかってもらえたらと思います。

今回は、「やる気」についてです。今年の夏には、東京オリンピックが予定されています。4月4日に池江 璃花子（いけえりかこ）さんが、東京オリンピックの代表選考を兼ねた日本選手権の100メ



ートルバタフライ決勝において57秒77で3年ぶりに優勝し、東京オリンピック出場の権利を獲得しました。その時のインタビューを見て、感動した人もいます。「目標を持って頑張る」ことは、素晴らしいことですね。

皆さんは、日本人で、初めてのオリンピック金メダリストが誰であるか知っていますか。その人は織田幹雄（おだみきお）という人で、広島市の隣の安芸郡海田町出身です。昨年、海田町に、織田幹雄記念館がオープンされました。また、毎年、4月下旬に、彼の功績を称え、エディオンスタジアム広島で、織田幹雄記念国際陸上競技大会が開催されています。

織田幹雄さんは、1924年のオリンピック・パリ大会に出場し、三段跳において、日本陸上で初めて入賞し、1928年のオリンピック・アムステルダム大会で、同じ三段跳で15m21cmを跳んで、見事、金メダルを獲得しました。

彼には、一つのエピソードがあります。織田さんは小さい頃、体を動かすのが得意ではありませんでした。広島第一中学校（現在の国泰寺高校）での体育の授業では、走り高跳びで一番低い高さが跳べませんでした。先生から1週間練習するように言われた織田さんは、毎日1時間跳ぶ練習をしました。すると今度は、学級で一番高く跳べるようになりました。もし、最初の高跳びで「自分には出来ない」とあきらめていたら、もし、1週間の練習を怠っていたら、のちの功績はなかったでしょう。「自分には出来ない」ではなく、「やれば出来る」と思うことが大切です。

